

テレビ会議/WEB会議システム市場は前年比118%で推移。ITベンダも続々参入

2008～09年版ビジュアル・コミュニケーションシステム市場 VOL.2 テレビ会議/WEB会議編

調査要綱

・調査内容

1. FTTHやNGNの追い風を受けて、世界的に期待高まるテレビ会議/WEB会議システム市場について、国内・海外を調査。市場実態を把握し、将来推移を予測した。
2. テレビ会議/WEB会議システムのハイデフィニション化(高解像度化)推移予測、販売戦略、ユーザ需要動向、導入阻害要因、次世代アプリ、ポスト会議などについて参入32社の考え方を明示。今後の市場の方向性について分析した。

・調査対象製品

- (1)テレプレゼンスシステム (2)テレビ会議システム
(3)WEB会議システム(サーバへのソフト・インストール型, ASP型, 専用機型/ハード一体型, クライアントへの画像ボード&ソフト in型, データ共有メインのWEB会議)

・調査対象企業 国内メーカー、海外メーカー、国内代理店、国内SIer(合計50社)

・調査対象地域 日本国内(国内生産, 国内出荷/輸出)、海外

・調査期間 2007年9月～2008年1月

・調査方法 弊社専門調査員による直接面接調査及び電話・メール取材
当社データベース、過去実施の調査データからの考察

調査結果サマリー

- ・ BB普及やNGNサービスにおいて最も期待されている具体的なアプリケーションのひとつがテレビ会議/WEB会議システムである。
- ・ 2007年のテレビ会議システム世界市場の規模は20万台。内、日本国内が1万8,000台、海外が18万2,000台となった(見込み値)。
- ・ 2002～08年まで、テレビ会議システム世界市場は平均118%程度の高い成長率で推移する見込み。これまでは欧米が市場の中心であったが、今後はBRICSが成長を牽引することになる。
- ・ 06年以降、シスコシステムズ、HP、日立グループ、NECグループ、富士通グループなどのITベンダがテレビ会議やWEB会議市場に続々と参入してきている。

資料体裁

資料名:「2008～09年版ビジュアル・コミュニケーションシステム市場 VOL.2 テレビ会議/WEB会議編」

発刊日:2008年2月12日 体裁:A4版/273頁

定価:157,500円(本体価格:150,000円、消費税等:7,500円)

株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL:<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 管理本部 広報室 TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

1 . FTTH と NGN を追い風に、08 年期待のテレビ会議 / WEB 会議市場

- 2008 年の通信インフラでは、DSL から FTTH に主役の座を徐々に移行させながら、BB (ブロードバンドの略。DSL、FTTH、CATV インターネットなど) の契約者数は引き続き増加している。FTTH (光ファイバー網) 契約者数は 2003 年から急成長を遂げており、2007 年には 1,000 万人を突破した。
- 2008 年の通信サービスでは、2008 年からサービス開始の「NGN (Next Generation Network の略)」に注目が集まっている。通常の IP 網が通信速度を保証しない「ベストエフォート型」であったのに対して、NGN では通信速度を保証し、さらに音声通信の音声品質や映像通信の映像品質といった通信の品質レベルを保証できるようになる。またこれは日本だけの話ではなく、全世界の主要国における通信ネットワーク基盤が一斉に NGN に変わろうとしているという。
- こうした BB 普及や NGN サービスにおいて最も期待されている具体的なアプリケーションのひとつにテレビ会議 / WEB 会議システムがある。NGN の高品質で高速なネットワークが、スムーズな動画を大きな解像度で表示することを可能にするからだ。従来のテレビ会議システムでは実現が難しかったサービスが NGN によって可能になるといわれており、テレビ会議 / WEB 会議市場にとって大きな追い風となりそうだ。

2 . IT ベンダのカメラソリューション事業としてのテレビ会議 / WEB 会議市場

- 1980 年代の「ニューメディア」、1990 年代の「マルチメディア」、そして 2000 年代の「ブロードバンド」の名の元に、テレビ会議システムは常に期待の次世代通信アプリの代表格であり続けた。そして 2010 年が目前に迫ってきた今年 2008 年においても相変わらず、時代の追い風「NGN」の名の元にテレビ会議システムは次世代通信アプリ期待の星である。
- インフラの面からも、技術の面からも、「双方向のリアルタイム映像伝送」というものに対する人々の期待はたいへんに大きく、また決して止むものではない。ここ数年の流れとしては 2005 年に BB 普及によって、その期待は低価格な WEB 会議システムに集中し、国内 WEB 会議市場参入メーカーは 50 社を超えた。そして 2007 年、その大きな期待に沿えず WEB 会議市場は伸び悩んでしまった。50 社の参入メーカーの中には撤退組も出てきた。
- だがその一方で 2006 ~ 07 年あたりから、IT ベンダはユニファイド・コミュニケーションという名称で「声、カメラ、ビデオ、テキストデータ、WEB 会議などの連携を実現する新たなソリューション」を標榜し、大きな期待を寄せ始めている。

- ・ シスコシステムズ、HP のテレプレゼンスシステム参入。日立グループ、NEC グループ、富士通グループのテレビ会議や WEB 会議への参入。こうした IT ベンダはユニファイド・コミュニケーション事業において、たとえ実際の利益の多くはルータやサーバの販売によるものとしても、会議システムのもつ「双方向のリアルタイム映像伝送」という独特なアプリの魅力を最高の“見せ玉”として生かしていこうとしているのではないか。

3．会議システムの品目分類

- ・ 会議システムと一言でいっても、その製品品目は最低でも 1 システム数千万円するテレプレゼンスシステムから、1 システム 100～300 万円程度のテレビ会議システム、さらに殆ど無料で使えるパソコン用ソフトまで、価格レンジが広い。
- ・ 次ページの表は現在の国内における会議システムの製品品目を価格帯の順に上から並べ、品目ごとの主な国内参入メーカー名を列举したものである。
- ・ (1)テレプレゼンスシステムは技術的には一般的なテレビ会議システムと同じだが、HD(ハイデフィニション)対応の 50 インチ以上の大型ディスプレイを使用し、遠隔地にいる相手がまるで目の前にいるかのように見せる存在感や一体感を実現するというもの。会議室毎に最適化を図るため、オフィス家具や照明装置などの周辺設備やサービスまで一括して受注する。
- ・ (2)テレビ会議システムは、会議システムの中心的存在である。基本的には、ISDN(H.320)か IP 回線(H.323)で使う。2006 年から HD(1280x720)対応の製品が増えてきている。1 対 1 だけでなく、MCU を利用して 3 拠点以上を結んでのテレビ会議もある。
- ・ (3)WEB 会議システムは一般的に、インターネットを介して、パソコンベースで構築されているものを呼ぶ。会議システムの中でも、特に WEB 会議システムの場合は、次ページ表 ~ のように細かく分類化される。
- ・ WEB 会議システム市場において伸びているのは「サーバへのソフト・インストール型」と「ASP 型」の 2 品目であり、参入企業もそれぞれ 40 社以上存在する。この 2 品目が今後も WEB 会議システム市場の中心的存在になるものと思われる。
- ・ (4)パソコン無償ソフトは、マイクロソフトや WebEx などが提供する「オフィスツールのアプリのひとつとしての WEB 会議である。またスカイプなどを利用したコンシューマレベルの井戸端会議的 WEB テレビ電話も含まれる。新たにこのような低価格システムの流れも生まれてきている。

表「会議システムの製品品目一覧表」

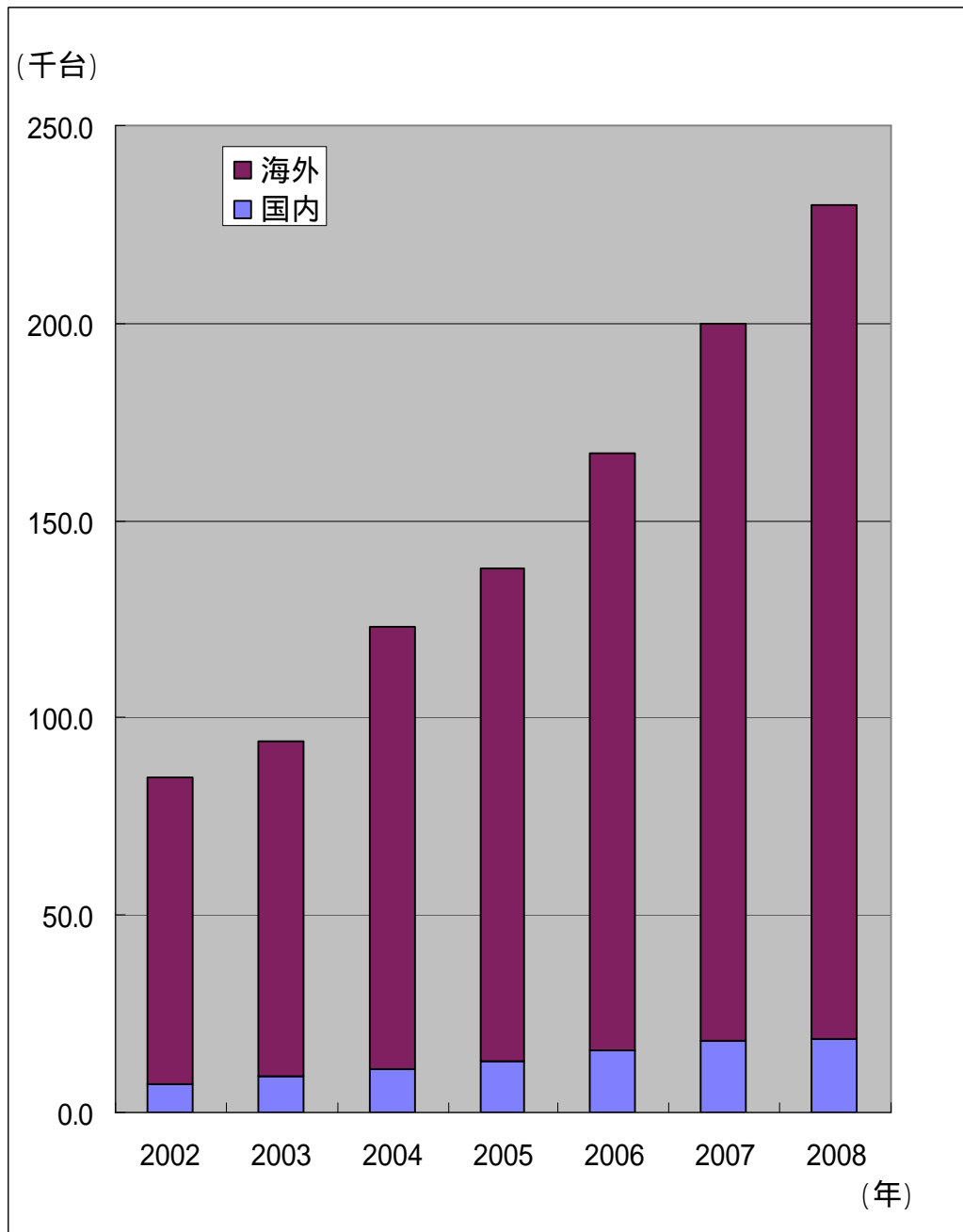
製品品目	主な国内市場参入メーカー
(1)テレプレゼンスシステム	シスコシステムズ、HP、タンバーク、ポリコム
(2)テレビ会議システム	ポリコム、ソニー、タンバーク、NECエンジニアリング、アエスラ、他
(3)WEB会議システム	
サーバへのソフト・インストール型	エイネット、NTT-IT、沖電気、日立コミュニケーションテクノロジー、キャノンソフト情報システム、クレオ、富士通、JMS、他
ASP型	NTT-IT、ブイキューブ、エイネット、JMS、富士通、SOBAプロジェクト、他
専用機型 (ハード一体型)	ギンガネット、日本システムウェア
クライアントへの画像ボード&ソフトin型	日本システムウェア
データ共有メインのWEB会議	マイクロソフト「Office Live Meeting」、WebEx、他
(4)パソコン用無償ソフト	マイクロソフト「Windows Live メッセンジャー」、スカイプ「Skype ビデオ」、他

(矢野経済研究所作成)

4. 世界テレビ会議システム市場推移

- ・ 次ページの図表は、会議システムの中で最も市場が確立しているテレビ会議システムの世界市場推移（2002～08年，国内／海外，台数ベース）である。
- ・ 2007年のテレビ会議システム世界市場の規模は20万台。内、日本国内が1万8,000台、海外が18万2,000台となった。（見込み）
- ・ 2002年～08年までテレビ会議システム世界市場は平均118%程度の高い成長率で推移している（当社推定）。これまでは欧米が市場の中心であったが、今後はBRICSが成長を牽引することになるものと思われる。

テレビ会議システム出荷台数推移 (海外/国内, 2002～08年, 台数)



テレビ会議システムはハードウェア端末台数をカウントする

単位: 千台

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007 見込	2008 予測
世界市場 (台数)	85	94	123	138	167	200	230
海外 (台数)	77.7	84.9	112.0	125.0	151.3	182.0	211.5
国内 (台数)	7.3	9.1	11.0	13.0	15.7	18.0	18.5
世界市場 (前年比)	-	110.6%	130.9%	112.2%	121.0%	119.8%	115.0%
海外 (前年比)	-	109.3%	131.9%	111.6%	121.0%	120.3%	116.2%
国内 (前年比)	-	124.7%	120.9%	118.2%	120.8%	114.6%	102.8%

(矢野経済研究所推定)